



創立150年
記念特集

150th Anniversary
Thematic Exhibition

東京国立博物館の

Islamic Ceramics from the TNM Collection

2022 10.4(火) -

2023 1.22(日)

東京国立博物館 東洋館 5 室

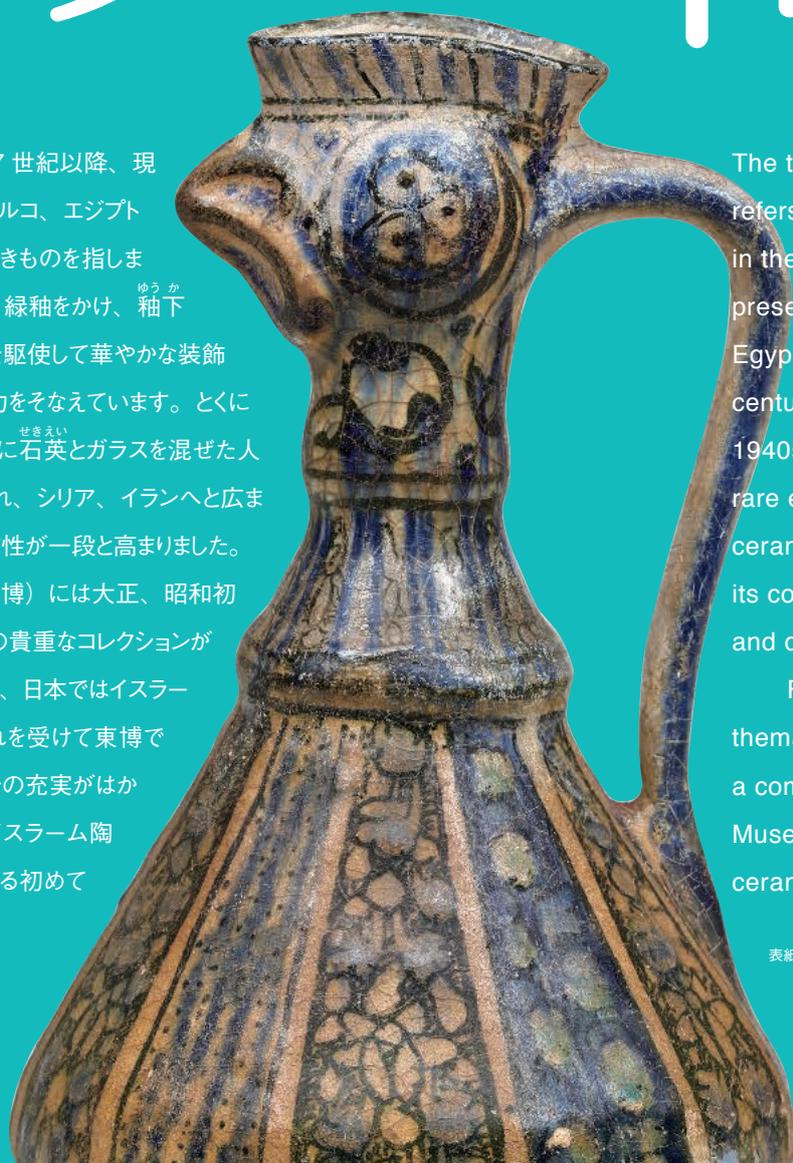
イスラーム陶器

イスラーム陶器とは、およそ7世紀以降、現在のイラン、イラク、シリア、トルコ、エジプトを中心とした地域で焼かれたやきものを指します。その多くは、藍釉や白釉、緑釉をかけ、釉下彩や線刻、貼付けなどの技法を駆使して華やかな装飾をほどこしたもので、独特の魅力をそなえています。とくに11世紀後半のエジプトで陶土に石英とガラスを混ぜた人工の「フリット胎土」が発明され、シリア、イランへと広まると、釉の発色は安定し、装飾性が一段と高まりました。

東京国立博物館（以下、東博）には大正、昭和初期に取められたイスラーム陶器の貴重なコレクションがあります。また1950年代以降、日本ではイスラーム陶器の収集熱が高まり、これを受けて東博では購入や寄贈によるコレクションの充実がはかられました。本特集は東博のイスラーム陶器コレクションをまとめて展観する初めての試みとなります。

The term “Islamic ceramics” refers to ceramics created mainly in the areas corresponding to present-day Iran, Iraq, Syria, Egypt, and Turkey from the 7th century. From the 1910s to the 1940s, the Museum acquired rare examples of Islamic ceramics and further enriched its collection through purchases and donations.

For the first time ever, this thematic exhibition presents a comprehensive look at the Museum’s collection of Islamic ceramics.



表紙：多彩鳥形手付瓶 TG-1219（下）、No.6（上）

9~10世紀

アッバース朝 サーマーン朝

9～10世紀になると、現在のイラクやイラン北東部で個性的なやきものが焼かれるようになります。白土で化粧をしたり、白い鉛釉をかけるなどして素地を整え、色釉を駆使して華やかな装飾をほどこすのが特徴です。



さいどうぶつもんはち
1. ラスター彩動物文鉢
Bowl with an Animal
イラク、バスラ アッバース朝 9～10世紀
TJ-4854

ライオンらしき動物が描かれています。独特の光沢はみられないものの、ラスター彩の初期の作例に位置づけられる貴重な作品です。



さんさいこくかもんはち
2. 三彩刻花文鉢 Bowl
イラン、ニーシャープール サーマーン朝 9～10世紀
TG-3055

格子に渦文を細かく刻み、その刻文を黄と緑の鉛釉でなぞり、さらに褐釉で斑文を散らすという手の込んだ装飾がほどこされた多彩釉の器です。

12~13世紀

ホラズム・シャー朝

イランでは12世紀になると、陶土に石英とガラスを混ぜた人工のフリット胎土の使用によって釉色が格段に美しくなり、成形技法も複雑化しました。バラエティーに富んだ器種器形に、さらさらと輝くラスター彩や細密画の影響をうかがわせる繊細な色絵など、イスラーム陶器最盛期の魅力にあふれた作品を紹介します。



はくゆうきもんへい
3. 白釉浮文瓶 Bottle
イラン セルジューク朝～ホラズム・シャー朝
12～13世紀初頭 山中定次郎氏旧蔵品
TG-1199

型押し、もしくは貼付けで胴部に唐草風の文様、頸には天使らしき人物文をあらわした瓶。ガラスや金属の器形に影響を受けた白釉陶器の優品です。



いろえじんぶつもんはち
4. 色絵人物文鉢 Bowl with Figures
イラン、カーシャーン ホラズム・シャー朝
1180年代～1220年代 山中定次郎氏旧蔵品
TG-1205

白釉をかけて焼成し、その上に絵付けをしてもう一度焼き上げたものです。本作品のように、物語性をうかがわせる人物画が繊細な筆遣いであらわされたものを、一般に「ミナイ手」（ミナイとはエナメル彩の意）と呼びます。

ラスター彩とは、酸化銀や酸化銅を含んだ顔料で絵付けをしたもので、きらきらと金属的な光沢を放つてみえるのが特徴です。なかにはラスター彩の上から文様を削り落とす掻落しで装飾したり、藍釉で彩ったり、複雑な技法をほどこしたものもあります。

さいきばじんぶつもんつほ
5. ラスター彩騎馬人物文壺
Jar with Figures on Horseback
イラン、カーシャーン
ホラズム・シャー朝 1170年代末～1200年頃
TG-3067



らんさいとりもんはち
6. ラスター・藍彩鳥文鉢
Bowl with Birds and Flowers
イラン、カーシャーン
ホラズム・シャー朝 1200～1230年
TG-3070



さいかきおとしりもんみずさし
7. ラスター彩掻落鳥文水差
Water Pitcher with Birds and Flowers
イラン、カーシャーン
ホラズム・シャー朝 1200～1230年
TG-3071

関連王朝交替表

	エジプト	シリア	イラク	イラン	中国
900		アッバース朝 750~1258		サーマーン朝 875~999	唐 618~907
1100	ファーティマ朝 909~1171		ブワイフ朝 932~1062		五代十国 907~960
			セルジューク朝 1038~1194		遼 916~1125
	アイユーブ朝 1169~1250			ホラズム・シャー朝 1077~1231	北宋 960~1127
1300	マムルーク朝 1250~1517		イル・ハーン朝 1258~1353		南宋 1127~1279
1500			ティムール朝 1370~1507		元 1271~1368
1700	オスマン帝国 1299~1922				明 1368~1644
1900					清 1644~1911

およそ出品作品にかかわる地域の王朝について示したものである。今回の展示にかかわる王朝の年号は『新イスラム事典』(平凡社、2002)にもとづき、支配権が交替したと考えられる年を示し、王朝自体の存続年代とは異なる場合もある。



関連地図

出品作品にかかわる国名と地名のみ表記した。

イスラームの青緑釉

イスラーム陶器に特徴的なターコイズブルーの釉薬。この釉は人工胎土と相性のよいアルカリ釉で、呈色剤に銅が用いられています。中国のやきものにほどこされる藍釉とも異なる緑がかった独特

の青色で、濃淡によってさらに神秘的な表情をみせています。



せいりよくゆうこくさい こざら
8. 青緑釉黒彩小皿
Small Dish
シリア、ラッカ
アイユーブ朝 13世紀
TG-599



せいりよくゆうこく かとりもんはち
9. 青緑釉刻花鳥文鉢
Bowl with a Bird
イラン ホラズム・シャー朝 12世紀
TJ-4853

13~14世紀

イル・ハーン朝

この時期の作例として、黒色、藍色、青緑色の釉を用いて下絵付けをほどこし、透明釉をかけた「釉下彩」のやきものが挙げられます。ちょうど同じ頃、中国で隆盛した景德镇鎮窯の青花磁器の明快な文様表現とは異なり、滲んで流れるような表現が特徴です。



たさいどうぶつもんはち
10. 多彩動物文鉢
Bowl with an Animal
イラン イル・ハーン朝 13世紀中頃~14世紀中頃
TG-3074

こくらんさいはいしゅつつきぼ
11. 黒藍彩把手付壺
Jar with Handles
イラン イル・ハーン朝 13世紀中頃~14世紀中頃
TG-3073



東京国立博物館 草創期のコレクション

イスラーム陶器の収集と研究は、イギリスやフランスにおいて1880年代頃より本格的に行なわれるようになります。やがて1920年代から日本でも紹介されるようになり、東博にはその当時に集められた貴重なコレクションが収蔵されています。



さんさいこくもんはち
12. 三彩刻文鉢
Bowl
地中海東岸 13世紀
TG-621



13.
せいりよくゆうこくさいはち
青緑釉黒彩鉢
Bowl
シリア、ラッカ
アイユーブ朝 13世紀
TG-622

佐藤進三氏旧蔵品

佐藤進三（1899～1968）は大正、昭和期の古美術商、研究者で日本陶磁協会の理事をつとめた人物。昭和5年（1930）、備前や肥前、瀬戸などの日本のやきものと一緒にこの2点を取めました。多彩釉の鉢（No.12）は赤茶色の胎に白化粧をした後、線刻で文様をほどこして緑釉と褐釉で彩ったもので、かつて「キプロス三彩」と呼ばれたものです。

山中定次郎氏旧蔵品

山中定次郎（1866～1936）は明治期にニューヨーク、ボストン、ロンドン、パリに支店や代理店を構えた世界的な古美術商です。白釉浮文瓶（No.3）や色絵人物文鉢（No.4）、青緑釉藍彩鉢（No.14）など、制作地や制作年代の異なるバラエティーに富んだ作品を昭和7年（1932）に東博に収めました。

せいりよくゆうらんさいはち
14. 青緑釉藍彩鉢 Bowl
Iran セルジューク朝～ホラズム・シャー朝
12～13世紀初頭
TG-1200



15. さい
ラスター彩
からくさいもんはち
唐草文鉢
Bowl with Vines
Iran, カーシャー
ホラズム・シャー朝
12世紀後半
TG-1220



たさいはち
16. 多彩鉢
Bowl
Iran イル・ハーン朝
13世紀中頃～14世紀中頃
TG-1218

横河民輔氏寄贈品

横河民輔（1868～1945）は明治から昭和初期にかけて活躍した建築家で、東洋陶磁収集家としても知られています。体系的な中国陶磁コレクションのほか、朝鮮、日本、東南アジア、ヨーロッパのやきものも集めており、昭和7年～18年（1943）にかけて約1100点を東博に寄贈しました。イスラーム陶器の数は少ないものの、世界各地のコレクションのなかでも類例の少ない作品（No.15）が含まれています。

13~15世紀

マムルーク朝

13～15世紀頃、マムルーク朝（支配下）のエジプト、またはシリアにおいて焼かれたやきものを「マムルーク陶器」と総称しています。これらは、基本的に赤茶色でずっしりと厚みのあるつくりの天然陶土の素地に白土や線刻で装飾をほどこした釉下彩（スリップ彩）のやきものです。

せいりよくゆう
17. 青緑釉ランプ
Lamp
エジプトおそらくフスタート
マムルーク朝 13～14世紀
TG-3077



おうゆうはくつりりさいこくもんはち
19. 黄釉白堆緑彩刻文鉢
Bowl
エジプト マムルーク朝 14世紀
TG-3080



おうりよくゆうはくさいはち
18. 黄緑釉白彩鉢
Bowl
エジプトまたはシリア
マムルーク朝 14～15世紀
TG-3081



【謝辞】本特集につきまして、神田惟氏（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）に貴重なご助言を賜りました。記して感謝申し上げます。

創立150年記念特集 東京国立博物館のイスラーム陶器

令和4年（2022）10月4日発行

執筆：三笠景子 撮影：藤瀬雄輔 翻訳：ミウオシュ・ヴェズニ（以上、東京国立博物館）、レベッカ・ハーモン（WritingWise）
デザイン・制作・印刷：能登印刷株式会社 編集・発行：東京国立博物館

©2022 東京国立博物館 Tokyo National Museum